

# 語り部の経営者たち

ジャーナリスト五嶋正風

**市民エネルギーちば  
東光弘 代表 53歳**

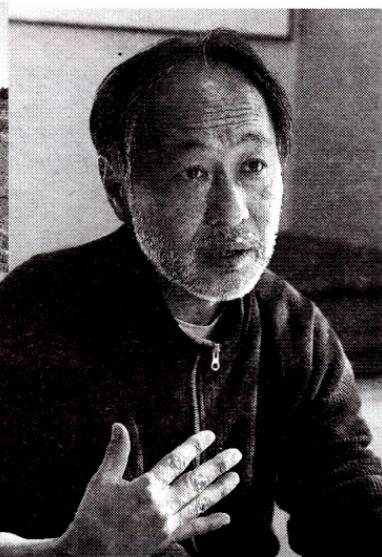
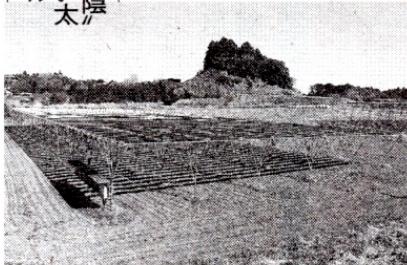
**弘代表** 53歳 ①  
脱原発の実現へ、再生可能エネルギーの切り札と目される太陽光発電。政府の普及政策もあってあちこちに発電所を見かけるようになったが、広大な用地をどう調達するか、山野を切り開くことによる自然破壊は悩みのタネだ。

千葉県匝瑳市のかな電力会社「市民エネルギーいちば」は、発電パネルの下で作物を作り農地をダブルインカムにする「ソーラーシェアリング」を広めることで、これらの問題を解決しようとしている。日本の農地は約4万5000平方キロ。これだけあれば用地は十分、今ある農地の活用なら自然も破壊しない。

日本のパタゴニア本社や店舗の電力をまかなうため、メガソーラー発電所の通電式には小泉純二

『脱原発』で小泉純一郎とも氣脈を通じる

# 太陽光パネルの下で農作物を生産する 二毛作方式



葉市美浜区の埋め立て地にある団地に引っ越しした。当時はまだ造成が続いているおり、立ち入り禁止区域には湖のような巨大な水たまりがあった。

葉市美浜区の埋め立て地に立った。戦場カメラマンのような立派な団地に引っ越し、ジャーナリストになりたかった。当時はまだ造成が続いている、立ち入り禁止区域には湖のような巨大な水たまりがあった。

最初はミジンコくらいしかいなかつたのが、ミズスマシ、ゲンゴロウと一緒に環境問題への関心が再び高まつたという。「地球全体をひとつ生命体とした」とみなす、ガイア理論に出合つたのがきっかけで、東氏は語る。

「商品又は  
報発信で、  
関心を高め  
ると考えた  
こいつして  
中堅食品メ  
したが、そ  
力月で辞  
る。

「舗を通じた情  
環境問題への  
ることができます」  
1989年、  
メーカーに就職  
ともわざか9  
めることにな  
（つづく）

郎ら脱原発で氣脈を通じる首相経験者3人も駆け付けた。代表の東光弘氏はどんな道を経て“世直し電力事業”にたどりついたのだろうか。

「だから母親からは、商売だけはやってくれるな、堅い仕事に就いてくれと言われていました。まったくそうなりませんでしたね（笑い）」

「始まりました」  
子ども時代から商才の  
片鱗へんりんも見せる。家は裕福  
ではなく、小遣いは少な  
い。団地の工事現場で空  
きビンを拾い集めて小遣  
いを稼いだ。

新聞学科に進学。就職志望もマスコミ一本に絞つた。だが環境問題は受けが悪く、数十社落ち続けた。秋になつてようやく大手出版社の内定を得たが、内定者を拘束する“青

京の下町で生まれた。父年々生態系が豊かになっていく。最後はミズカマタが、東氏が生まれる前、キリを見つけて大喜びしました。自然や環境問題への関心は、その頃から

「そうだ、自分は環境問題を追うジャーナリストになろう！」

# 語り部の経営者たち

ジャーナリスト五嶋正風

**市民エネルギーちば**  
**東光弘 代表**  
53歳

農地兼発電所にすることで再生可能エネルギーを増やし、脱原発を実現しようともくろんでいる。代表の東光弘氏は大学卒業後、当初のマスクミニストから方針転換。「商品や店舗を通じた情報発信で、環境問題への関心を高めよう」と、中堅食品メーカーに就職した。「期待の新人と目されていたので、入社早々重要な仕事を任せられ、成果も出しました」

農地の上に太陽光発電パネルを設置することで、一石二鳥を実現する電力会社「市民エネルギークラブ」。日本の広大な田畠を

## 就職した中堅食品メーカーを9カ月で退職

# 16坪の有機八百屋がヒットし “メディアの寵兒”に



若くして最初のビジネスが成功

「都心のイケてるエゴシ  
ヨップを経営する、若き  
経営者は、メディアに  
ももてはやされた。「新聞  
や雑誌はもちろん、TB  
Sのドキュメンタリー番  
組で、大きく取り上げら  
れたこともありました」  
ところが好事魔多し。  
絶好調だった東氏は70  
0万円の不渡り手形を繰  
けて2本もつかまされ  
た。

「 いうものかと、思い知らされました」  
部署の大部屋には課ごとのシマが並び、少し離れて部長の席がある。「何十年がんばって、せいぜい部長席に座る場所が変わるくらいのこと。なんだかつまらないなど思つてしましました」  
そして、わずか9カ月で退職。「堅い仕事に就いてほしい」と願つていた母には、2年ほどは会社を辞めたと言えなかつた。

次に働き始めたのが、学生時代にアルバイトを

していた東京・御茶ノ水の有機八百屋「ガイア」だった。場所こそ一等地だがわずか16坪の広さ。久しぶりに店に顔を出してみると、女性のオーナー店長から「東くんなら今日からでも働いてほしい!」と熱望された。「会社を辞めて気持ちがめいっているときに求められて正直うれしかった」と、東氏。

「月商400万円は最低必要なのに、実際の売り上げは300万円。300万円あった貯金は、支字の穴埋めですぐに底尽きました」

前職で学んだ流通の知識を総動員して不良在庫を一掃、集客にも恵みを絞り1年ほどで月商を1500万円まで伸ばしました。

「広さ16坪でそれだけの売り上げですから、店はいつもお客様でごったがえしている状態でした」

不渡り手形を立て続けにつかまされる

「月商400万円は最低必要なのに、実際の売り上げは300万円。30万円あった貯金は、赤字の穴埋めですぐに底を尽きました」

前職で学んだ流通の知識を総動員して不良在庫を一掃、集客にも知恵を絞り1年ほどで月商を1500万円まで伸ばしました。

「広さ16坪でそれだけの売り上げですから、店はいつもお客様でごったがえしている状態でした」

従業員には「ガイアは自然食品店ではない」と言い続けていたという。「無農薬栽培の大根は、客の健康のために売るのではない。そういう大根が生態系への負荷が最も少ないから売るのだと説明していました」

環境問題の重要さを訴えるために大根の横にソーラーパネルを並べたりもした。一風変わった商品の陳列も「流通はメディア」を体現する手法のひとつだったという。

「何をやってもうまくいくとてんぐになつていてた。きっとイヤなやつになつていたのでしよう。スタッフからも『一緒にやつはやつていけない』と言つされました」

東京組  
↓ オンデーズ  
↓ 市民エネルギーちば

JAL ユーハイム

# 語り部の経営者たち

# ジャーナリスト五嶋正風

**市民エネルギーちば**  
**東光弘 代表**  
53歳

農地の上に太陽光発電パネルを設置することでの農業と発電の兼業を可能にするソーラーシェアリングの普及を目指す電力会社「市民エネルギークラブ」。パタゴニアが自社の電力を貯う太陽光発電所の設営や運用を任せることなど、メジャードコロとの連携も進めている。

代表の東光弘氏は31歳の時、不渡り手形を掴まされて東京・御茶ノ水の有機八百屋を運営する会社の社長を引責辞任した。失意の中、実家のあつた千葉市美浜区に戻り、別に新たなエコショップを立ち上げた。

—  
—  
—

## 介護で離職

# 両親の年金を頼りに 食いつなぎエネルギー 事業のビジョンを描く



高さ3メートルほどの架台に設置した太陽光パネルの下で農業もやる

発の仕事を時折請け負いながら、両親の年金も頼りながらどうにか生活をつないだ。家計はこの頃が一番苦しかったという。介護は両親が相次いで他界する2013年まで続いた。

11年3月11日の東日本大震災が発生した当  
日。その日の午前中に再び、再生可能エネルギー買い取り  
法案が閣議決定された。後に施行される同  
法。後に施行される同

で、その下で人が農作業  
でき、トラクターやコ  
ンバインも使える。

きました」  
発電パネ  
作物は、普  
らないどこ  
質がいい。  
けて、それ  
った。

ルの下で育つ  
通の畠と変わ  
るか、むしろ  
東氏は数年か  
を体感してい  
(つづく)

うちに両親が病気になり、独身の東氏は介護に専念することになった。店の経営からも離れ、单  
就職するくらいしか道はありませんでした」  
そんな状況が変わったのが、2つかけとなつたのが、2

シェアリングだった。この方式では、太陽電池が設置される架台は高さ約3.5m。大きな藤棚のよう

し、週1ペースで農場に通い、農作業を手伝いながらソーラーシェアリングのノウハウを学んでハ

問題に取り組むには、大手の電力会社やガス会社こそ、CHO技術研究所の長島杉氏が発案したソーラー

栽培野菜のような「たおやかさ」を感じた。

「かその本丸端を担う好機だと感じた。当時はまだ両親の介護が続いていたが、起業ではエネルギーに向けて研究を進めてい

ところが千葉県市原市の実験農場に行ってみると、そこで育つ作物にはかつてエコシヨップですよ



う夢た。高設の「環境問題を  
ずつと勉強し  
て、エネルギー  
社を起業し、脱原発の一  
性を以前から懸念してい  
た東氏は、今こそ電力会  
社も起きた。原発の危険

いもんじないと、発案者に文句を言ってやるつもりでした」と東氏は笑う。

3年ほど前の発電量した太陽光などで農業もやんことを思い描いていた。エネルギー問題に直接取り組めることになるぞと喜びました

い寸法だ。

**決定された法案が転機に**

台に  
ネル

そんな東氏による電力買い取りを  
は介護を続け国が約束することにな  
ながら次の起  
業へのビジョ  
「これで自分も、工ネル

で並ぶ。これだけ隙間があるとパネルの影は時間追って移動し、ずっと日陰になる作物はできな

# 語り部の経営者たち

## ジャーナリスト五嶋正風

**市民工ネルギーちば**  
**東光弘 代表**  
53歳

4

田畠の上に太陽光発電パネルを設置し、農地兼発電所を可能にする電力会社「市民エネルギーちば」。千葉県匝瑳市にあるメガソーラー発電所の通電式には小泉純一郎氏ら元首相3人が駆け付けるなど、脱原発実現の旗手として期待されている。

代表の東光弘氏は、ソーラー・セントラルのシェアリングを知ったのと同時に、太陽光発電に関心を持った頃、太陽光発電に関する情報収集のため、同社のもうひとりの代表、椿茂雄氏と一緒に会った。

椿氏の家は、匝瑳市豊和地区で約350年続く農家だ。2人は環境問題と農村活性化を一気に解決する仕組みをつくりたいと意気投合。2013年に同地区を拠点に活動を始め、翌年合同会社を設立。今年7月から株式会社に改組する。

ソーラーシェアリングを広めようとする同社に注目した

農業だけでなく6次産業化も担う



# デモで反対を訴えるより 原発に頼らない 仕組みをつくりたい

のが、城南信金前理事長で原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟会長の吉原毅氏だ。知り合いを介して同社の見学に来た吉原氏は、「その取り組みに惚れ込んでくれた。「今でも講演のたびに、私たちのことを話してくれます」と東氏。

1メガワットの発電能力を持つメガソーラー発電所を建設する際、吉原氏に相談してみると、城南信金から2億2000万

## NPO、地元住民

農業生産法人2つのうち、ひとつは発電パネルの下に広がる田畠の農作業を請け負う。売電収入から委託料を受け取り、収穫した作物の売り上げも農業生産法人に入る。もうひとつは作物を使った古民家農泊レストランなどを計画している。

また同地区の発電所は、売電収入から一定額を協賛金として村つくり協議会に納め

農業生産法人2つのうち、ひとつは発電パネルの下に広がる田畠の農作業を請け負う。売電収入から委託料を受け取り、収穫した作物の売り上げも農業生産法人に入る。もうひとつは作物を使つた6次産業化を担う。同地区では太陽光発電所の電気で醸造するビール、それらを供する古民家農泊レストランなどを計画している。

## NPO、地元住民らでつくる“団塊システム”

講演のたびに、「私たちのこと  
を話してくれます」と東氏。  
1メガワットの発電能力を持つメ  
ガソーラー発電所を建設する  
際、吉原氏に相談してみると、  
城南信金から2億2000万

あれはこそだて

円の融資がすんなり決まりました。17年4月の通電式には細川護熙、小泉純一郎、菅直人らと3人の首相経験者が集まつたが、これも吉原氏の応援が

設して日本支社より全店舗で使う電気の半分ほどを供給していくという。

市民エネルギーしばの事業は、同社自身が発電したり、他の事業者の発電所建設や運営を請け負ったりにとどまらない。農業生産法人、NPO、地元住民らでつくる村づくり協議会などを組み合わせ、"匝瑳システム"とでも呼べる仕組みを編み出した。